

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.150

2016年8月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660
谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706



兵庫県保険医協会但馬支部支部長就任のごあいさつ

『開業医宣言』を道標として 医師・歯科医師の「拠り所」に

新支部長 谷垣 正人

保険医協会但馬支部会員のみなさま、
日頃は支部の諸活動にご参加・ご協力
いただき誠にありがとうございます。

先般、7月10日に開催された支部総
会で、新しく但馬支部の支部長に選任
されました。但馬支部は設立以来ずっ
と、旧但東町・高橋診療所の新田誠先
生が支部長を務めてこられました。高
齢と病気のためこれ以上ご無理をお願
いできなくなり、支部長交代となりま
した。新田先生には長い間、本当にあ
りがとうございました。

さて、来年度には、（延期も検討さ
れているものの）新専門医制度の導入
が予定されており、但馬地域を含む地

方の病院はさらに医師不足になると予測
され、私たち開業医も大きな影響を受
けることは必至です。また、但馬の公
立病院のベット削減計画も日程に上がっ
てきています。

厳しい医療情勢のなかで、常に保険
医協会の『開業医宣言』を道標としな
がら、協会が一人でも多くの医師・歯
科医師の「拠り所」となれるよう、こ
れからも支部活動に取り組んでまいり
たいと考えております。

非力で生き届かない点がたくさんある
かと思いますが、ご協力、ご鞭撻のほ
ど、どうかよろしくお願い申し上げま
す。

但馬支部第30回総会記念講演

「医療政策から見る医療情報IT化・地域医療連携・情報リテラシーの動向」

但馬支部は7月10日に支部総会を豊岡市民会館で開催した。総会議事では、新年度活動方針を採択し、新支部長に谷垣正人先生を選任、前支部長の新田誠先生を名誉支部長に選出した（4面参照）。

記念講演では「医療政策から見る医療情報IT化・地域医療連携・情報リテラシーの動向」をテーマに前兵庫県医師会事務局：安慶名(アゲナ)正樹氏が講演、会員ら8人が参加した。

安慶名氏は、医療政策からみた情報技術との関連性や全国での地域医療連携の動向、兵庫県下での地域医療連携システムの紹介、情報リテラシーの重要性など分かりやすく解説した。参加者から寄せられた感想を紹介する。



講師も交え活発に意見交換がされた

感 想 文

今年1月に兵庫県医師会事務局を退職され、フリーとなられた安慶名さんによる講演会に参加しました。この間、約2年前より豊岡市医師会ホームページを作成するのに多大な貢献をしていただいたこともあり、また、ITに関しては専門家で、県医師会事務局でも医療政策などについて関わってこられたことより、今回の講演に対しては大変興味をもってお話を伺いました。

まず、国の医療政策は予算のこともあり財務省主計局などが中心となり、政府内閣が方向性を提示し各省庁で調整、2～4年先を見越して、方針を立てているとのこと。現在は団塊の世代が75歳以上となる2025年対策のため、平成30年実施の予定で地域包括ケアシステムの構築が進んでいるとのことでした。

この件に関して、名目GDP 600兆円を目標とした成長戦略(日本再興戦略2016)のなかで、新たな有望成長市場の創出としてIoT・ビッグデータ・AI(人工知能)・ロボットなどに関連して医療政策が関係づけられており、ITを使った地域医療連携システムについても新たな市場としてとらえられているように思えました。そして、ITを使った地域

(3面につづく)

（2面からつづく）

医療連携システムについて兵庫県の各地区でのケースを紹介いただきました。

まず病院での医療データを各医療機関で閲覧できる、

西脇市・小野市などの北播磨きずなネット

（NECのID-LINK）

三田市、宝塚市、尼崎市などのむこネット

（富士通のヒューマンブリッジ）

そして、それらにつながる在宅ケアシステムのメ

ディカルケアステーションなど

大きなシステム導入に介しては平均1200万円 年間の運営費平均120万と聞いて、やはり費用のかかることと思いましたが、いい加減なものではセキュリティに問題があるとのことで、それは仕方がないのかもしれない。

豊岡ではまだ、ITを使った病院診療所間での医療連携システムや医療介護間の在宅システムの構築の予定はありませんが、現在進行している他地区でのこれらシステムの活用がされ具合をみて、今後当地区でも新たな動きが出てくるのかもしれない。

IT化に関しては、耳慣れない新しいことが次々に出てきてついていくのに必死ですが（すでについていけていませんが）それでも、街中では、スマートフォンが当たり前のようになり、医療界でも電子カルテなどが徐々に広がってきています。

レセプトもオンライン化が進み、IT機器が身近に存在するようになれば、今度はそれらをつないで活用しようという動きも出てくるようになるのでしょうか。

また、豊岡市はスマートウェルネスシティとして全国7自治体の一つとして特区に入っており、特定健診情報やレセプト情報が個人情報削除されたうえですがデータ登録されているとのことで、確かに豊岡市は「歩いて暮らす街づくり条例」で運動習慣による健康増進に力を入れているようで、健康ポイントや、玄さん元気教室などのスロー筋トレを公民館単位で取り組んでおり、そのような活動が、将来、健診データの改善に有効であるというような分析結果が出てくるのでしょうか？

まだ当面は我々の周りでITに関しての急な変化はないのでは、とどこか他人事のように気楽に考えているのですが、ひょっとすると兵庫県下の周りの状況によっては、急にシステムを導入するというのも、あるのかもしれない、必要な予備知識としてこのようなお話を伺う機会があればまた参加させていただきたいと思っております。



講師の前兵庫県医師会事務局
安慶名(アケナ)正樹氏

【豊岡市・吉田 仁志】

兵庫県保険医協会但馬支部役員 敬称略

支部長	谷垣 正人（豊岡市）新	古澤 倫代（美方郡）
副支部長	下山 均（美方郡）	馬庭 幸二（朝来市）
	藤井 高雄（豊岡市）	山田 真義（美方郡・歯科）
幹事	森 和夫（養父市）	由良 徹也（豊岡市・歯科）
	坂本 健一（朝来市）	吉田 仁志（豊岡市）
	野田 昌男（豊岡市）	顧問 谷 尚（養父市）
	長谷川正宜（豊岡市）	名誉支部長 新田 誠（豊岡市）新

2015年度活動報告

- 1、第29回支部総会記念企画（7/12）では、「南但馬の医療・介護・福祉問題」懇談会を開催。会員、公立八鹿病院管理者・副院長・看護部長、高齢者施設長、市民団体代表、市議会議員ら12人が出席した。総会議事では、副支部長に藤井高雄先生（豊岡市）を新たに選出した。
- 2、シリーズ企画「他科を知る会」を公立豊岡病院、公立日高医療センターで3回（9/19、11/28、6/30）開催、会員や勤務医ら延べ17人が参加した。アドバイザーの同病院顧問：芦田一彌先生や公立豊岡病院皮膚科：秋山創先生より、整形外科、皮膚科領域の多数の症例を検討した。参加された先生方から「日常診療に役に立つ」と好評を得ている。
- 3、2013年5月に養父市で開業された森田龍親先生の診療所見学と診療経験交流会「日常診療勉強会」（6/27）を開催、会員ら6人が参加した。
- 4、協会研究部と共催で下山均副支部長を講師に「在宅医療点数研究会」を開催（8/1）、会員医療機関職員ら12人が参加した。
- 5、公立豊岡病院の教育研修講演の位置付けで同病院と共催で3回目のライブプランセミナー開催の要請があり、当協会から税理士法人日本経営：緒方聡氏を講師に「勤務医の確定申告活用術」を開催した。若手勤務医ら24人が参加した（10/2）。
- 6、第4回医院経営研究会「医療事故調査制度における注意点」（講師：浜松医科大学教授・大磯義一郎、鶴飼万貴子弁護士）をテーマに公立豊岡病院で開催、会員、看護師ら18人が参加した（12/12）。
- 7、市民講座「糖質制限食ダイエットって大丈夫？」（講師：フーズ&ヘルス研究所代表 幕内秀夫氏、坂本健一支部幹事）を開催（1/31）。市民ら200人が参加した。
- 8、(医科) 新点数改定研究会(講師：下山均副支部長)を開催(3/27)、80人が参加した。
- 9、協会歯科部と共催で歯科新点数Q&A研究会・会員懇談会を開催(4/29)、10人が参加した。
- 10、協会研究部と共催で医科新点数Q&A研究会（講師：下山均副支部長）を開催（4/30）、24人が参加した。
- 11、職員接遇研修会「患者さんとのコミュニケーション力の向上」（講師：目白大学短期大学部学長 油谷純子 先生）を開催(5/14)、24人が参加した。
- 12、勤務医未入会員対策として、但馬地域の12の公立私立病院長宛に新田誠支部長より紹介状を得て、全病院を訪問。医局での資料配布など勤務医対策に取り組んだ。また、公立豊岡病院と共催で勤務医(家族)対象に「受験セミナー」(講師：中央受験センター講師陣)を開催(5/26)、勤務医家族ら8人が参加した。
- 13、『2015年病医院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全21病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。
- 14、支部ニュースを3回発行し、活動の報道を行った。
- 15、支部幹事会は4回開催、研究会等の企画立案を行なった。

2016年度活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「他科を知る会」（整形外科領域、皮膚科領域）をシリーズ企画で開催する。
- 2、歯科会員のニーズに応える企画を開催する。また、審査問題など医科歯科一体の企画を定例化する。
- 3、「地域医療を考える懇談会」など、医療・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 4、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「会員懇談会」を開催する。
- 5、医院経営研究会を年一回の定例企画として開催する。
- 6、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 7、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 8、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 9、市民公開企画を開催し、地域住民や市民団体との連携を強める。
- 10、協会研究部が主催する臨床研究会の同時中継を但馬地域で開催する。
- 11、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 12、魅力ある幹事会運営に務め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 13、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 14、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。